

「五十嵐浜開拓団 開拓記念の碑」

新潟市西区真砂

新潟県新潟市西区真砂の住宅地内の小さな公園に、開拓記念碑がある。同地区（旧・西蒲原郡内野町）は戦前、不毛の海岸砂丘地だったが、戦後開拓事業が実施された。

1946（昭和21）年頃、新潟市内居住の引揚者から、同地区を開拓地に設定するよう、県に熱心な陳情が続いた。やせた砂丘地で、適地とは言い難かったが、開拓地を最大限確保する必要性から、県は同地区の取得に取りかかった。

入植希望者は案外多かった。49年11月、11戸の農家が入植し、五十嵐浜開拓農業協同組合を設立した。標高1～16m、面積52畝の荒涼たる砂原だった。入植者は、地区の海岸寄りに砂防垣を設け飛砂防止に努めるとともに、開墾作付けや、定住のための各種作業に専念し、数年が経過した。

やせた地力に加え、風害や日照りが相次ぎ、伸び悩みの農業生産に、開拓者の闘志も鈍りがちだった。

養豚経験者が、都市近郊の特殊環境を活用し、残飯主体の養豚を始め、大規模経営に発展した。これに啓発された他の開拓者も、養豚や酪農などに力を注ぎ、一大畜産団地が形成された。

一方、新潟市が発展して大きくなりつつあった。58～59年、地区縦断の産業道路が整備されてから、急速に街並みが伸びることになり、近辺一帯の農地転用が著しく増加した。60年1月、内野町は新潟市への編入合併により、町名は真砂町となった（現・西区真砂）。

現在は宅地となり、昔日の開拓地の面影はない。住宅地にある記念碑は、同開拓農協が67年9月に建立したもので、碑銘は「五十嵐浜開拓団 開拓記念の碑」。

裏面には、碑文と入植者2名の氏名・生年月日が刻まれている。碑文の後段には、「入植以来飛砂風雪とたたかい熱砂旱魃に耐え親和協力しよく営農の実をあげ子孫の道を開いた」「当時の姿と努力を偲んでここに記念碑を建て後世に伝えるものとする」と記してある。

「五十嵐浜開拓団 開拓記念の碑」

- ①調査日 2018年4月11日
- ②所在 新潟市西区真砂
- ③地区の沿革 昭和24年11月標高1～16米、面積52畝の荒涼たる砂丘地に11戸が入植。
- ④設置年月日 昭和42年9月15日
- ⑤設置者 五十嵐浜開拓農業協同組合
- ⑥碑名 開拓記念碑
- ⑦碑文（表面） 五十嵐浜開拓団 開拓記念の碑 新潟県知事 亘 四郎
- ⑧碑文（裏面） 此の附近一帯（真砂町5821番地）は裏日本特有の飄々とした不毛の砂丘地であったが太平洋戦争後 国の食糧増産の一旦を担い生活の礎を築こうと昭和24年11月4日11戸の農家が入植して五十嵐浜開拓農業協同組合を設立した 入植以来飛砂風雪とたたかい熱砂旱魃に耐え親和協力しよく営農の実をあげ子孫の道を開いた 昭和35年1月11日内野町が新潟市に合併され大新潟市の住宅地として目覚しい発展をとげ現在の姿となった 当時の姿と努力を偲んでここに記念碑を建て後世に伝えるものとする
昭和42年9月15日
五十嵐浜開拓農業協同組合 入植者11名の氏名と生年月日
- ⑨現在の状況 住宅地内の小公園に立地し、管理されている。

